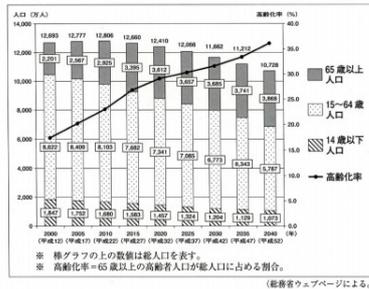


2 三 適切な情報を得て、自分の考えを書く 正答率 24.8%

三 あなたは、二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていきたく思いますか。あなたの考えを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 資料「A ウェブページの文章」、**「B 日本**の人口推移を表したグラフ」、**「C 雑誌の記事の一部」**の中からいずれか二つを選び、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書くこと。



生活を支援するロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する歩行型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でのバトールなどに使われている。現在、日本では、「生活支援ロボット」の開発が行われている。誰でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける歩行型ロボットの開発に加え、装着型ロボットの開発も進んでいる。これは、装着した人の意思を読み取って身体の動きをサポートするロボットである。身体機能の回復のためのリハビリテーションなどで既に一部導入されているが、今後は、足腰の弱った人の歩行支援、重い荷物の持ち上げ、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。

このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、日夜進められているのだ。

〔新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による〕

Discover Tomorrow
～未来 (あした) をつかもう～

世界のスポーツ界が急速な変化や様々なチャレンジに直面する中で、東京は「素晴らしい大会を確実に開催し、オリンピックとパラリンピックの価値を次世代に受け継いでいく」ことを訴え、招致の成功を実現することができました。そのメッセージは、世界に約束できる3つの強みによって支えられています。

まず、安心、安全、確実な大会開催。世界有数のインフラやセキュリティを誇る東京の都市力に加え、大会は政府のバックアップを受けて開催されます。数々の国際競技大会開催経験に基づく日本の運営能力も、円滑な大会運営に貢献します。

次に、オリンピック・パラリンピックへの日本の情熱。大都市東京の中心で、多くのファンによって選手に大歓声が送られる大会は、かつて類を見なかったような素晴らしい祝祭となつて、世界中の人々を熱狂に駆り立てます。

3つめに、イノベーション。最先端都市東京の中心で、日本のテクノロジーや想像力を結集し革新に満ちた大会を開催することで、オリンピック・パラリンピックのインスピレーションを世界中の若者たちへ届けることができます。

また、招致が決定したブエノスアイレスのIOC総会では、日本のプレゼンターが、東日本大震災以降、日本人があらためて気づいたスポーツの真の力についても訴えました。

震災復興に際して、多くのアスリートたちが被災地に足を運んでいます。活動の中で、子供たちがスポーツを通じて少しずつ笑顔になっていく様子を目の当たりにし、私たちはスポーツやアスリートが社会において果たせる役割についてあらためて気づくことができました。2020年の大会開催に向けて、今度はそのスポーツの力を世界に伝えて、社会におけるスポーツの価値向上に貢献する、それが日本の決意です。

〔公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブサイトによる〕

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 【A ウェブページの文章】、【B 日本の人口推移を表したグラフ】、【C 雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選んで、その記号を塗り潰している。
- ② 選んだ二つの資料の内容を適切に取り上げて書いている。
- ③ 2020年の日本がどのような社会になっているかを予想して具体的に書いている。
- ④ 社会にどのように関わっていきたくを具体的に書いている。
- ⑤ 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書いている。

(正答例)

【AとBを選択】(二〇二〇年の日本は、) オリンピック・パラリンピックの影響で様々なスポーツに注目が集まるだろう。今後増えていく高齢者もスポーツに関心をもつと思われる。そのような社会に、私は、スポーツ関連のボランティアをすることで積極的に関わっていきたく。(118字)

【BとCを選択】(二〇二〇年の日本は、) 高齢者が増え、その高齢者を支援する様々な生活支援ロボットが活躍する社会になっているのではないのでしょうか。私は、今よりも更に安全で性能が高いロボットを開発する仕事に就き、社会に貢献したいと思いました。(110字)

問題の趣旨

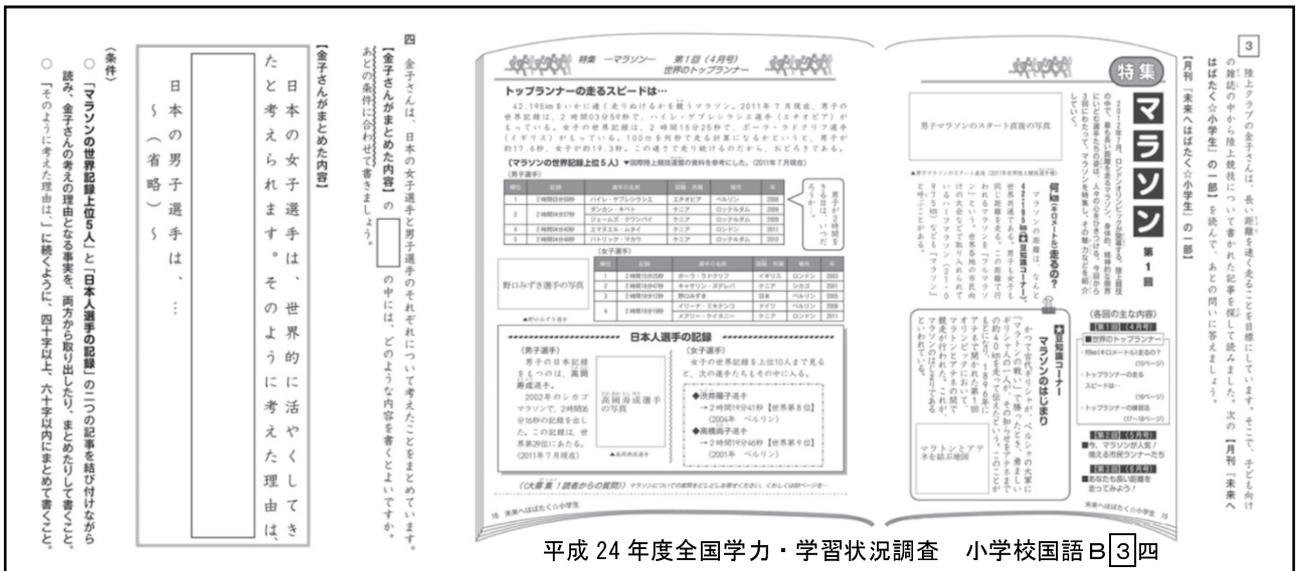
複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 〔第2学年〕 B書くこと 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
- C読むこと 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

分析と課題

今回の問題は、今年度全国学力・学習状況調査の対象となった生徒が、小学校6年生の時にいった平成24年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語B③四の「複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつことができるかどうかをみる」問題に課題が見られたことを踏まえて出題されたものである。この時の広島県の正答率は40.4% (全国37.7%)であった。



今回の結果から、複数の資料から情報を取り出し、自分の考えを具体的に書くことには依然課題があることが分かる。誤答で多かったのは、条件①、②、③、⑤を満たしているものの、④の「社会にどのように関わっていきたいかを具体的に書いている。」を満たすことができていないもので、広島県では46.6%であった。(全国44.7%)

(誤答例)
【AとBを選択】(二〇二〇年の日本は,)東京オリンピックが開催され、世界から多くの人々がやって来て、世界とのつながりが広がるすばらしい社会になっていると思う。だけど、少子高齢化で大変な社会だとも思う。(90字)

この誤答は、2020年の社会にどのように関わっていきたいかを書けていない。一つ一つの資料の内容は理解できているものの、それらを関係付けて自分の考えをもつことができなかつたと考えられる。

(誤答例)
【AとBを選択】(二〇二〇年の日本は,)高齢化が進んでいくと考えられる。そうなれば、介護を必要とする人が増え、身体の動きを支援する装着型ロボットが幅広く活用されることになるだろう。自分もこれからの社会に関わっていきたい。(101字)

この誤答は、下線部を見ると、一見自分の考えを書けているように思えるが、2020年の社会にどのように関わっていきたいかが具体的に書かれていない。自分の考えを具体的にもつことができない、もしくは、抽象的な内容を具体的に説明する力に課題があることが考えられる。

なお、B3三にも、自分の考えの形成に関わる問題として、小説の最後の一文があった方がよいか、ない方がよいか自分の考えを書くというものがあるが、広島県の正答率は、33.6%(全国31.1%)であり、そこでも自分の考えの形成に課題があることが明らかとなっている。

指導のポイント

○ 複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えさせる必然性のある言語活動を設定した単元を仕組みましょう。

今年度の「基礎・基本」定着状況調査で課題であったタイプⅡの五2「情報の取り出し 根拠を明確にした記述」の指導のポイントとして、考えたことをポスターにして伝えるという学習を提案しています。そのような複数の情報を関係付け、自分の考えを書く必然性のある言語活動を設定して指導することが効果的です。他にも、国立教育政策研究所の「平成27年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」には、複数の資料から適切な情報を取り出し、それらを関係付けながら自分の考えを具体的に書く学習が提案されています。それらも参考にして授業改善を進めましょう。また、国語科だけでなく、他教科等でも、多様な情報に触れて自分の考えを具体的に表現する機会を多く設定していくことが大切です。